

第3回 筑後川学識者懇談会 議事要旨

日 時：平成29年11月21日（火）14：00～16：00

場 所：国土交通省筑後川河川事務所 第1会議室

出席者：（委 員）：楠田委員長、矢野副委員長、古賀委員、小松委員、駄田井委員、
平松委員、松井委員（以下○：委員意見）

（事務局）：筑後川河川事務所長、筑後川ダム統合管理事務所長 他
（以下●：事務局発言）

1. 議 事

議事 1) 河川改修事業の再評価【資料-2】

・事務局より「事業の概要」および「その必要性等」について説明

（主な質問・意見）

○事業評価の便益に水道施設被害に伴う給水停止の被害は計上されているのか。計上できればした方が良いと思われる。

●マニュアルに基づき算出しており、給水停止被害の軽減に関する便益は計上していない。

（結果）

○対応方針（原案）について、了承した。

議事 2) 環境整備事業の再評価【資料-3】

・事務局より「事業の必要性等」、「前回評価時からの変化」、「投資効果」等について説明

（主な質問・意見）

○環境整備の実施にあたり、地元の声として、都市河川への水質改善の要望はあるか。
無ければこれまでの水質改善に係る事業の効果と言えるか。

●現在、水質改善の要望は挙がっていない。過去、筑後川水系の支川において、水質浄化事業を実施し事例もあるが、全般的には下水道の普及等により水質改善が進んでいる。

○久留米市街部の整備において、モーターボート等の現状の水面利用との調整はどのようになっているか。

●今回の整備内容には、現状の水面利用に係る部分の整備は無い。なお、水面利用協議会において、水面利用に関する話し合いの場を設けているところであり、地元から水面利用も含

めたイベント等の開催要望も聞いていることから、本事業を進めることで、更なる利活用が図られることと思う。

○久留米市街部や筑後大堰下流区間など、以前に比べ水際が単調となり、それに係る動植物が減少していると思われる。動植物が生活できて環境学習などにも使えるような環境整備を積極的に取り入れていただきたい。

●ご意見を踏まえ、地域等の意見も伺いながら事業を進めていく。

○流域人口の推移が概ね横ばいの状況において、便益が増えているのは何故か。

●評価基準年が更新され、マニュアルに基づく社会的割引率が加算されたことにより、費用・便益ともに増加している。加えて、便益については、H26 から H29 で世帯数が増加したことにより値が増加することとなる。

○算出に使われるデータとして、世帯数よりは人口の方が分かりやすいのではないか。

○総便益は、継続箇所だけでなく、完了箇所も含めた計算になっているのか。

●含めている。

○B/C 算出における前提条件はきちんと明記した方がよい。

○今後の整備に際しては、減災や自然環境など、整備効果をトータルで考えて事業を進めていくべきだと思う。

○その他、筑後川においては、利水と環境の問題が大きいと認識しているが、永い目線での取り組みアプローチを考えてほしい。

(結果)

○対応方針（原案）について、了承した。

議事 3・4) 現整備計画内容の点検【資料-4】及び 整備計画の変更素案【資料-5】

・事務局より「整備計画点検の流れ」および「変更素案」について説明

(主な質問・意見)

○今回出水で花月川において目立った流木災害が発生しなかったのは、平成 24 年出水で流木が流れてしまったからか。

●厳密な原因分析は出来ていない。なお、花月川上流の小野川における大規模な土砂崩壊は出水の翌日に発生しており、出水によって流下していない可能性もある。

○今後の災害対応を検討する上で大変重要だと思う。花月川における H24、H29 の流木の発生状況とその要因分析をお願いしたい。

○今回出水で下流域は降っていないが、最悪のケースを想定してシミュレーションしているか。

●想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図を作成しているところ。今回の降雨を下

流域へ移動させたケースの計算は行っていない。

○災害リスク情報はどのように発信されているのか。

●筑後川本川では气象台と共同発表の洪水予報、支川では関係者への水位周知情報などを発信するほか、必要に応じて、事務所長から首長へ直接電話連絡を行うホットラインを実施しており、その情報を基に避難勧告や避難指示が発令されている。

○次期整備計画における気象変動に係る記述はどのような内容か。

●洪水の激甚化や発生頻度の増加など、一般的な傾向としての記述にて検討している。

○次期整備計画における施設能力を上回る洪水等への対策とはどのような内容か。

●危機管理型ハード対策やソフト対策など、一般的な記述にて検討している。

○筑後川流域の気象状況の変化について、全国と比べてどうか、分析してほしい。流域内の状況の変化として、片ノ瀬地点における年最大流量の変化など、基準地点以外も含めて整理すべき。

○整備計画変更について、筑後川は半閉鎖水域である有明海へ流出することから、土砂輸送や水質に関する記述も必要と思う。

●河川整備計画の記載内容として、関係機関等も考慮して整理して参りたい。

2. その他

・ 次回の学識者懇談会は、12月～1月にて日程調整を図る。